

建築家の隈研吾氏監修「いとまちマルシェ」



8月1日に開業する「いとまちマルシェ」  
—21日午後、西条市朔日市

西条の「食」発信

こだわりの直売所

来月1日開業

西条市朔日市で新たな街づくりを進めている糸プロジェクトは22日、事業の第1弾となる直売所「いとまちマルシェ」を8月1日に開業すると発表した。国立競技場の設計に携わった建築家の隈研吾氏が監修した店舗で地元農産物などを販売する。

マルシェは店舗面積約500平方メートル。地元生産者が出品した野菜や鮮魚、花、加工品などを販売する。鉄

骨平屋の建物はモノトーンと木目を基調としており、広場に面した壁はガラス張り。開放的な雰囲気にした。停電時には太陽光と蓄電池で3日間の電力を賄える防災力を備えた。

広報担当者は「お客さまの日々の暮らしがより豊かになるよう、地域に根差した店舗を目指したい」として来店を呼び掛けた。

プロジェクトは朔日市一帯の約6鈔に住宅100戸

のほか、マルシェ、ホテル、温泉などを整備する計画。隈氏が街づくりの骨格となるマスタープランを手掛けた。市内で精密機器などを手掛けるアドバンテックが中心となって立ち上げた実行委員会が2017年に計画を発表し、事業を推進。今年5月に運営を担う株式会社糸プロジェクト（石本祐子社長）を設立した。

計画地の中央を流れる御舟川の西側にある住宅エリアでも建築が始まっており、既に1棟が完成。分譲方法などは今後明らかにするとしている。マルシェが

ある東側の商業エリアでは温泉のボーリング調査を今年3月末に終えたが、温泉施設やホテルの設計が未完了。マルシェ棟の未利用部分の業態についても今後検討するという。

プロジェクトに合わせて市は御舟川周辺整備事業を18年度から実施。御舟川約500鈔の両岸に遊歩道などを設けるほか、プロジェクト側が取り組む約4千平方メートルの市民緑地整備を補助する。総事業費は2億2700万円、来年3月に完了予定。

(岩田太)